

放送人の会

34

No. 35
2007・12・19

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階

Tel&fax 03-3221-0019 E-mail info@hosojin.com

代表幹事 今野勉 編集担当 磯村健二、伊藤雅浩、鈴木典之、長沼士朗、松尾羊一

新たな流れが始まる

放送人の会・代表幹事 今野 勉

今年は、「あるある大事典」事件で始まり、放送法改正で終わった年でした。「あるある大事典」の捏造問題に対応しての政府の放送法改正案には、新たな行政処分条項が盛り込まれていましたが、最終的にはその条項は削除されました。

番組制作における不祥事は、社会問題になるだけではなく、政治介入を招く危険があることは、これまであるごとに言われてきたことです。が、今回は、身にしみて感じたことでした。

改正放送法には、もうひとつ重大な条項ができました。「マスメディア集中排除原則」の緩和です。これによつて、放送持ち株会社の設立が可能になり、その会社のもとに、複数の放送局が子会社としてグループ化されることができるようになります。

地方局の制作者たちにとっては、これまでにない新たな放送の時代を迎えることになります。地方局の皆さんには固唾を呑んで状況の変化を見守っているのではないでしようか。頼むのは、時の流れに身を任せる

のではなく、地方局制作現場の人間同志の精神的、実務的連帯によって、新たな番組が胎動するのを見てみたいのです。

たまたま、来年は、平成十九年度の最後の「名作の舞台裏」が、札幌で行われることになります。正式にははじめての地方開催です。準備も大変ですし、お金もかかりますが、幸い放送番組センターの特別のご支援によって実現しました。

また、来年度の日韓中テレビ制作者フォーラムは、日本側の主催となるのですが、開催場所を福岡としました。これまで、東京での開催でしたが、今回はじめて地方で開催することにしました。新たな流れの始まりです。

私はですが、「新・調査情報」に連載してきた私の『d A』の時代——テレビも私も青春だった』は、今年の最終号で終了しました。TBS入社からテレビマンユニオン創立までの時代を、との約束で始まったのが一九九九年一月、それからまる九年間の連載でした、あらためて諸兄に感謝いたします。

今年発足した「ジャパン・インター・シヨナル・コンテンツ・フェス

ティバル」の一環としての「国際ドラマフェスティバル」も、来年度は、飛躍的な充実が期待されています。東京を舞台としたテレビドラマの世界的な交流の場となることを、私たちも期待するものです。これも新たな流れです。

南船北馬

坂と田を過ぎ山へ向かう

大山 勝美

安倍前首相の辞意表明第一報を耳にしたのは天津で「まさか、ガセネタだ」と思った。テレビ「あるある大事典」の当事者日本テレワーカーの古賀憲一氏の手記が出され最近読んだが、最初の反応が「まさか」。その後「白い恋人」「赤福」「吉兆」などの「まさか(坂)」の坂は続いた。年の後半になって、ようやく「やった!(田)」の田圃に出た。星野野球のアジア選手権の勝利、サッカーの北京大会進出決定、仲間たちで言えば石橋冠、堀川とんこう氏の芸術祭大賞と優秀賞受賞、北村充史、今野勉氏に統いて画期的な田原茂行、鈴木典之氏の「07テレビドキュメンタリー」の出版などである。

ホツとする間もなく来年は「ご苦労さん(山)」の山登りが待ち構えている。新春の「名作の舞台裏」の札幌進出、秋には福岡での「第八回日韓中テレビ制作者フォーラム」の開催である。「ごくろうさん」の山を登るには丈夫なお足(軍資金)が必要だ。山頂には絶景が待ち受けていると信じて、九州の村上雅通、西嶋真司氏、さらに在京の山上尚氏ら仲間たちと、年明けからお足

集めに走ろうとパドック入りして息を整えているところである。

古今の人々が残したタイム・カプセル

NHK OB 小河原 正巳
古代の人々が残したタイム・カプセル
「万葉集」から一日一首

今から千数百年昔に詠まれた、四五〇〇首にも及ぶ「万葉集」の歌の数々。

そこには、東北から九州に至る日本各地で、天皇から農漁民まで様々な階層の人々が作った多彩な作品が収められています。古代の人々の息吹を今に伝える、世界に例を見ない日本文学の宝と言つて過言ではありません。

そのタイム・カプセルのような「万葉集」から「一日一首」、各界で活躍する方々が選者となり、それぞれ「わが心の万葉集」を選び、歌への熱い思いを語ります。

各界を代表する選者による、テレビのための新しい「万葉集アンソロジー」

選者は、日本を代表する歌人や作家、歴史家から、画家、音楽家、料理研究家、俳優、映画監督、さらには外国人研究者に至るまで、万葉の世界を愛する約七十人の方々です。

選者が、一年間に選ぶ歌は、図らずも万葉集秀歌の選集(アンソロジー)となり、ミニ番組シリーズならではの、これまでにない、新しい「万葉集アンソロジー」となっています。

ナレーション 塙 ふみ
テーマ音楽 葉加瀬 太郎

こんな原稿を書いて、先刻NHK広報局に送った。

来年一月七日から、毎週月~金午前六時五十五分に、BS-1-h-iで放送の、

五分ミニ番組シリーズの総合プロデューサーを務めている、というのが、直近の近況である。

日本テレビ三十年、文教大学十五年の勤めを終えて悠々自適の暮らしと思つていたら、四年前、母校から同窓会の結成を頼まれて、けつこう忙しくしている。この同窓会の名前は「東京大学新聞研究所・社会情報研究所・大学院情報学環教育部同窓会」というおそろしく長い名前で、一九五〇年に東大新聞研が生まれて以来今日まで一貫してジャーナリスト養成に当たっている東大組織の後援会でもある。

誕生の由来は二〇〇四年に、小泉構造改革によって国立大学の独立法人化

が駄目になつたので、この際だからと地上のアナとデジ、それにBS/CBSが見られる液晶の薄型TV受像機と、VHSの録画再生機能付きDVDプレイヤーとのセットに切り換えた。

この便利さは、まさに抜群。ボタン一つで前番組がわかり、今後の進行も一週間先までの番組表で一目瞭然。録画予約も自由自在だし、ハードディスクには六十時間もの録画余力がある。

大事なものはDVDにダビングすればよい。ひとつ気付いたことは地上アナログとVTR機能は要らなかつたといふことであった。古いものを見ている暇もないほど次々と新しい出し物が登場して、わたしのテレビ視聴時間は以前より確実に長くなつた。

だが便利さの裏には必ずかの落

約と卒業生名簿を作り、役員を依頼していった。

会長は一力一夫河北新報社主(一期生)、副会長は小生(二期)と竹内郁朗(8期)。会員には渡辺恒雄(1期)、

小林茂(1)、伊藤邦男(2)、佐野洋(2)、杉野直道(8)、樋口恵子(5)、漆戸靖治(6)、藤竹暁(6)、武村正義(8)、日高義樹(9)、堀川敦厚(10)、横沢彪(10)、草野仁(16)、稻増竜夫(20)、森まゆみ(30)、尼崎昇(32)、小野文恵(41)などがいる。

ナベツネから小野文恵まで
—東大新聞研同窓会—

岸田 功

日本テレビ三十年、文教大学十五年の勤めを終えて悠々自適の暮らしと思つ

ついたら、四年前、母校から同窓会の結成を頼まれて、けつこう忙しくしている。この同窓会の名前は「東京大学新聞研究所・社会情報研究所・大学院情報学環教育部同窓会」というおそろしく長い名前で、一九五〇年に東大新聞研が生まれて以来今日まで一貫してジャーナリスト養成に当たっている東大組織の後援会でもある。

誕生の由来は二〇〇四年に、小泉構造改革によって国立大学の独立法人化

が駄目になつたので、この際だからと地上のアナとデジ、それにBS/CBSが見られる液晶の薄型TV受像機と、VHSの録画再生機能付きDVDプレイヤーとのセットに切り換えた。

この便利さは、まさに抜群。ボタン一つで前番組がわかり、今後の進行も

一週間先までの番組表で一目瞭然。録画予約も自由自在だし、ハードディス

クには六十時間もの録画余力がある。

大事なものはDVDにダビングすればよい。ひとつ気付いたことは地上アナ

ログとVTR機能は要らなかつたといふことであった。古いものを見ている暇もないほど次々と新しい出し物が登場して、わたしのテレビ視聴時間は以前より確実に長くなつた。

だが便利さの裏には必ずかの落

チャンネルが増えて時間が余つてゐるのだろうか。話題が豊富で紹介が念入りなのは結構だとしても、どれもこれもありに話が冗長なのだ。

古い話で恐縮だが、かつては10分か15分で一つの主題を過不足なく語りきることが、番組制作修行の第一歩だった。30分だと、相応の修練による技量と度胸が必要になり、45分ともなればそれ相応の覚悟が要つて、作り応えも見応えも充分にあつた。そして一時間以上となると何かの競技か行事の現場中継でもなくしては考えにくいことであつた。それが今ではなんと、番組といえど二時間もの間、チントラと続くのが普通で、主張も批評もないタダの「動くグラビア」である。

映像は溢れているようでいて、なにも語つてくれないにひとしい。大変な無駄遣いと言うしかない。

新たな旅立ち 小池勝次郎

「先生、イラン戦争のテレビ報道に情報操作は無かつたのですか？あのペストロイカで崩壊して行くソ連を横断取材した時、ソ連には報道の自由があつたのですか？」

桜満開の思川の土手を歩いている時、一人の学生から真剣な眼差しで声をかけられた。今年春、白鷗大学（栃木県小山市）で始めた「テレビジャーナリズム論」の講義で、私の思い出作品「感動！そして発見！ソ連横断4万キロ」（一九九一・三・二十四放送）の制作秘

話を語り、学生達と議論を終えて帰る途中だつた。

それから数ヶ月後、経営学部教授会で「高度情報化社会の中で、今ほど情報の虚実を識別する能力を有する人材の育成が求められている時はない。メディアの仕組みを理解し情報を有効活用できる、取材力と問題解決能力を有するジャーナリストックな学生を发掘し育てなければならない：」と語っている私があつた。

白鷗大学は、来年二〇〇八年度からメディア情報社会で躍進できる人材育成の「メディア・コース（専攻）」を新設する事を決定した。

いま大学は、少子化と変革の時期を迎える教育システムの改編と高度化を図らなければならぬ厳しい時を迎えてゐる。そして社会は、社会人基礎力を持つた有意な人材を求めてゐる。

「メディア・情報関連」教育に質の高い学習が求められるなか、白鷗大学「メディア・コース（専攻）」は、建学理念の一つ「プラス・ウルトラ（さらと創造力豊かな人材育成をめざして船出する。）

三十有余年、テレビの世界に学んできた事を次世代の若者に語り伝える機会を生かすべく、志を持つ仲間達と一緒に新たな地平を切り開く旅が始まつたばかりである。

「放送人の会」の皆様のご協力を仰ぐ機会があるかもしれない。その節はご支援をお願いします。（白鷗大学教

授・元日本テレビ）

新会社 近藤 晋

この歳で新しい会社を作りました。

資本金一千万円、従業員は社長一・経理の一計一名。事務所は自宅の六畳間、文字通りたつた一人の株式会社です。

設立、運転資金の借り入れに四苦八苦、やつとスタートラインに立ちました。

そこから学んだ人生の教訓？の報告です。

株式会社は資本金一円でOK、これには本当です。見栄つ張りの私は一万円にしましたが…。

借り入れは銀行では歯が立たず、国民生活金融公庫に頼みました。ここでも借入額レベルの自己資金が必須と

のこと。「金がないからお願いしてるので貯金があるならそれでやりますよ」

「いや預金通帳を提示して下さい。書画骨董は担保になりません」と恥ずかしながら私は提示する通帳がなく、搔き集めた金額相当分しか貸してもらえないませんでした。

最終審査では事務所の実態調査があります。架空のもので借り入れしようとする人がいるそうです。

今は、新起業家支援の制度があり、

私も暖かい対応を受けたのですが、基本線はゆるぎませんでした。

驚くことにこんなちっぽけな会社にも、三十数社から計理経営相談の案内状が来たのです。残念ながら仕事の斡旋は一件もなし。

「金を借りる」ことが如何に大変か。

「仕事をとる」ことが如何に難しかか。

実感しているところです。

でも、とにかくやりしかありません。

先達の諸社に尊敬を新たにすると同時に、新入りの「Shin企画」をよろしくお願いする次第です。

二題 佐藤 秀山

大先輩鈴木道明さんは、お会いする度に強靭な体躯は燐銀の輝きを増しておられる。

八十歳で癌の大手術。その後八年で超人的な訓練を克服され、ミユンヘンの水泳世界マスターに挑戦された。世界マスターの世界新記録十六種を保つておられる。正に超人である。八百メートルの自由形をビデオで拝見した。五百メートルをすぎた道明さんの泳ぎに変化が起きた。六百メートルをすぎた時、私はビデオの画面に向かって叫んだ。この迫力はどこから生まれて来るのだろう。やつた！八百メートルの世界新記録は達成された。

来年道明さんは米寿を迎える。米寿の感想をお伺いすると、間髪を入れず「人生は氣力です」。

二〇〇七年十一月、松本清張作、石橋冠監督の「点と線」が放送された。配役を見て驚いた。平均年齢四十歳？と思われる俳優陣。科白を疎に喋れないと、ジヤリタレは一人もいない。全員が

主役俳優だ。

冠さんから番組の案内状が届いた。

曰く「やつと力作ができましたので…」

たけしさんは出番のない時もセットの隅に座つて役割りを続けたといふ。

劇中、事件未解決のまま福岡へ帰るたけしさんは部屋を出ようとして、無念

の想い一杯で振り返った。稔侍さんがたけしさんの腕を掴んだ瞬間、二人の芝居は頂点に達した。最高のシーンだ！無性に涙が流れた。

竹山洋さんの脚本が素晴らしい。

冠さんはテレビ創立期の仲間である。

大団円に、余りにも多すぎるCMの挿入を無視する如く、冠さんの演出は終幕に向かって冴え、俳優陣の堂々たる演技はCMに打ち克つた。

冠さんの「点と線」はテレビ史上永遠に語り伝えられる力作である。

★

人は生きて往くためには、体力が必要です。体力が気力を生み、気力は努力によって昂まり、感動は心の雄叫びである。

齢八十。心豊かに生きたい！なんとそうは問屋が卸さない。

個人事務所

三宅 恭次

今年六月、四十年勤めた地方民放局を退社して半年が過ぎました。

七月から三ヶ月は旅行をしたり、すでに年金生活に入っている友人等に誘われたままゴルフに興じ、夜は夜で現役時代を上回るペースで酒を酌み交わしました。

これはこれで楽しい〃充実した日々〃ではあったのですが、御歳六十

三はまだまだ若い！気力も体力も十分ある！ということで、確たる目的もありませんでしたが、兎に角毎日出かけ

るところを作ろうと、十月から市内中

心部に「個人事務所」を設けました。(ロ

ー)カル局の卒業生は意外と漬しは利かず、再就職など容易にみつきません

朝七時からスポーツジムで一汗搔い

て、十時頃“出勤”、新聞や本を読み、パソコンを叩き、雑文を書いたりして

いると結構時間が経つものです。

自宅での三ヶ月とその後を比べて、

明らかに違いがあります。たとえ四畳半程度の小スペースでも、「我が城」で

あり、自宅とは違う異空間で過ごすことが如何に精神衛生上良いか、という

ことが分かりました。最近ではあるN

P.O法人に誘われ、起業を目指す人達へのアドバイス、サポートの「仕事」も始めました。

団塊世代の大量退職時代です。企業の再雇用制度は条件が厳しく、残りに

くいのが現状です。私の試みが、私は若干恵まれた立場にはあるのですが

、定年退職後のひとつのモデルになればとの思いもあります。

近況

守分 寿男

☆週三回、各三時間の人工透析を受け身となり、なかなか上京することができません。シンポジウムなどに出席できず申し訳ございません。

☆この二月の上旬に、かもがわ出版から本が出ます。『さらば卓袱台—テレビドラマの風景』です。北海道を制作の場として生きてきた思いを、また

北の風土と相対しながらどんなことを考え、どんな人々との出会いを通して

ドラマを考えたか、折々に書いてきた文章を、草創期から現在まで、時

間の枠を超えて構成したものです。さ

まざまな時代に書かれた文章が、新しい風貌で見えてきて、編集者の大胆な

モンタージュの試みに新しい感慨があ

りました。

お読みいただければ幸いです。

☆構成に一年半、更に二年がかりで手がけてきたドキュメンタリー『いのちの記憶—小林多喜二・二十九年の人生』(九十分)が五月の末に放送予定です。(北海道地区のみ、他は番販ネットの可能性を探る由)政治的人間としての多喜二を越えて、一途で純朴な若者の人生を描ければ、と考えています。

民放でも一社提供時代には、TBS(旧KRT)の看板番組ドラマ枠として月曜日「ナショナル」、金曜日「サンヨー」、日曜日「東芝」などそれぞれに名作を生んできました。

最近の民放ドラマはアニメ・劇画などのテレビ化・複数ポンサーのスポットCMなどにより視聴者のデジタル化に拍車がかかっているのではないでしょう。美形の女子アナの氾濫・スタイルリスト付きのキャスター・装飾過剰なバラエティーセット・CG効果の多用など画面セールスにポイントがあるようです。携帯電話でのテレビ視聴

を断ち切られた若者の無念を今に伝えることができます。と願っています。

ご覧いただければ幸いです。

テレビ雑感 吉澤 保

本年四月から大山勝美氏の推挙により入会しましたTBS美術OBの吉澤と申します。齢七十五になります。名簿を見ますと美術畠の会員が少ない様子なので、稀少価値があるのではないかと申します。

最近見ましたテレビドラマで印象に残った作品に、NHKドラマスペシャル「海峡」があります。主演の長谷川京子が適役なのと、脚本のジエームス

三木、演出の岡崎・吉川両氏の手腕に喝采をおくります。久しぶりに正統派の作品に出会えて嬉しくなりました。

また、民放と違つてCMがないことが「ドラマの流れ」「感情移入」を円滑にしているように思います。

民放でも一社提供時代には、TBS(旧KRT)の看板番組ドラマ枠として月曜日「ナショナル」、金曜日「サンヨー」、日曜日「東芝」などそれぞれに名作を生んできました。

「ドラマの流れ」「感情移入」を円滑にしているように思います。

民放でも一社提供時代には、TBS

(旧KRT)の看板番組ドラマ枠として月曜日「ナショナル」、金曜日「サン

ヨー」、日曜日「東芝」などそれぞれに名作を生んできました。

最近の民放ドラマはアニメ・劇画などのテレビ化・複数ポンサーのスポットCMなどにより視聴者のデジタル化に拍車がかかっているのではないでしょう。美形の女子アナの氾濫・スタイルリスト付きのキャスター・装飾過

剰余のバラエティーセット・CG効果の多用など画面セールスにポイントがあるようです。携帯電話でのテレビ視聴

(電子紙芝居)は若者たちに人気。

半世紀前「電気絵芝居」などと題されたながらも頑張り続けたアナログ放送へとつなげて、二度もこの頂点に。

怖いもの

渡辺
紘史

テレビの前に居続け、嘆き怒る私に、
ただ座つて見ているだけでよいのか！
お前こそ「身分なき共犯者」ではない
か！という声が聞こえてきた。

生まれて初めてパソコンに触ったのが昨年七月です。協力者のお力を借りて、日本語、英語のサイトがいま、世界に向かって飛んでいます。一步を踏

NHKは「日本の素顔」をやつていて、いつも腕組みをして、じつと見入ったものです。民放は数々の録音構成の名作を発表しておりました。

放送局、出版社に四十年間毎日出勤し、この六月に非常勤となつた。他人

が働いている時に休む事に後ろめたさ
さえ感じる質の私は、一月もすると、
終日家で怠惰な時間を過ごすことに慣
れてしまつてはいることに吃驚したもの
である。これまで自分の行動や生活を規
律してきたのは己自身ではなく、会社
仕事であつたことをつくづく思い知
つた次第だ。

家では、早朝から昼頃までニュース情報番組を見続ける事も多く、一月で二、三年分を見てしまつた気分だ。

最初に志をたてて以来、ここにたどり着くまで三十八年かかりました。八時間四十分ありますので、全編お聞きになるのは相当ほねだと思います。とりあえずはエピローグとエンディングをお聞きくださいますよう。

エピローグ「原子爆弾が投下される前夜、広島の澄んだ夜空には流れ星が流れ流れて流れて…」不気味です。

エンディング——放送では普通 同業者以外には関心のないスタッフ紹介が延々と続きます。この作品では、語る

あつたのだということ。ひとは一つ目
小僧や轆轤首、蛇女など「怖いもの」
見たさに木戸錢を払う。この電気見世物
小屋でも、偽装、不祥事、不倫等事件の当事者たちが即「怖いもの」に仕立てられ、庶民正義の味方を自認する
Mさん等ギャスター連が単純化、極端化された口上で「嘶」を轟つてみせる。
糾弾された「怖いものたち」は最後に「会見」という儀式を行い、謝罪してみせ、退場する。そして小屋では次なる「怖いものたち」が並んで出番を待っている。壮大な見せかけ（＝偽装）

被爆者も無名、制作スタッフも無名。誰が語ったか、作ったのか、いつか誰にも判らなくなり、ただ作品だけが残っている。誰かによつて作られたはずの「山椒大夫」の物語が、誰によつて作られたのか判らなくなり、ただ作品だけが「国民的文学」として残つてい

両サイトともまだアクセス数は數万
数千という単位で、放送の「マス」にはどうてい及びませんが、目標はそれぞれ百万です。誇大妄想に陥っているのではなく、核兵器は全人類、万人の関心事だからです。要はこのようなせりふがあることを、どれだけの人に周

H P 「被爆者の声」 伊藤明彦

H P 「被爆者の声」 伊藤明彦
インターネットに標題のサイトがあることを、どうぞ皆様にお伝えくださいま
すよう。

放送には（新聞も）発信するのには莫大な費用、施設、スタッフを要し、世界に向けて発信するには更に一層の費用と技術が要ります。「放送人」「新聞人」はサラリーマンたらざるを得ず、

「放送よさようなら。インターネットのいくつか程度です」

DVD鉄砲洲小学校の子供たち

松尾
羊三

生まれて初めてパソコンに触ったのが昨年七月です。協力者のお力を借りて、日本語、英語のサイトがいま、世界に向かって飛んでいます。一步を踏み入れたインターネット・ジャーナリズムの未来に無限の可能性を感じています。

放送には（新聞も）発信するのに莫大な費用、施設、スタッフを要し、世界に向けて発信するには更に一層の費用と技術が要ります。「放送人」「新聞人」はサラリーマンたらざるを得ず、不本意なサラリーマンとしての処世の術も要求されます。

インターネット・ジャーナリズムには数万円のツールと、「伝えたい」という最も原始的な「放送の原点」、「ジャーナリズムの原点」があればよく、時間的・空間的制限はいっさいありません。二十四時間がオンエア時間で、地球の裏側も瞬時に「視聴可能圏」です。視聴率は努力すればじわじわと上がっていく、それを知るのに一銭の費用も要りません。「処世の術」などむろん不要です。

両サイトともまだアクセス数は數五千という単位で、放送の「マス」にはどうてい及びませんが、目標はそれぞれ百万です。誇大妄想に陥っているのではなく、核兵器は全人類、万人の関心事だからです。要はこのようなせりふがあることを、どれだけの人に周

放送の現状は「残念」のひとことであります。放送の世界に足を踏み入れた頃、NHKは「日本の素顔」をやっていて、いつも腕組みをして、じっと見入ったものです。民放は数々の録音構成の名作を発表しておりました。

いま、まともなおとなが、じっと腕組みをして見入る放送がどれだけあるでしょうか。思いつくのはNHKスペシャルのいくつか程度です。

「放送よさようなら。インターネットこんにちは」という声が出てきそうになるのですが、「放送人の会」に顕彰していくだいた仁義上やめておきます（放送人格賞受賞者）

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

名作の舞台裏 第18回 「魔性」

日時・十一月十日（土）午後一時半～

ゲスト・浅丘ルリ子（出演）、芦川よし
み（出演）、池端俊策（脚本）、

鶴橋康夫（演出）、司会・荻野慶人



番組はまず雲海に浮かぶ東京拘置所の映像を示す。それは蜃気楼の城のようで、このドラマが幻想的なフィクションナルな物語として描かれることを期待させる。

脚本家の池端は「このドラマが終わるとき、鶴橋さんは『三年に一回はやりましょう』と言われました。『またやりましょう』じやなかつたですね」と言う。池端は今や売れっ子であり、このドラマも名作の名に恥じない。

ドラマの主人公は女死刑囚久野眉子である。番組プロデューサーの鶴橋康夫は浅丘ルリ子と多くのテレビドラマで付き合ってきたが、「死刑囚」をやつてくれとはなかなか言い出せなかつた。「あのう…レズなんですけど…」「いいわよ。やつたことはないけど…」「人形作家でね…結局レズの相手を殺ちやうんです…」

「ふうん…」「育ての親が悪い奴で、子供のころその男に犯されたんですね…」「死刑囚」となかなか言えないのは、化粧が許されない、つまり素顔、スキンでやれと言えなかつたからだ。やつと言い出すと「ただど人形作家なんでしょう？ 絵具があるわね。それで化粧はできるわ」。ドラマの中で浅丘ルリ子は緑色の顔料をアイシャドウに使い、異常な死刑囚の見事な化粧をしてみせた。

ドラマは拘置所の中の現在と回想シーンがフラッシュバックで綴られて行く。

「女が女を愛するつてのがわからなくて…」と浅丘は言うが、芦川よしみは映画の中でレズを演じた経験があった。二人のヌードシーンは美しい。

芦川が屋上で縄跳びをしていると見つめる浅丘の幻想の中で芦川が裸で縄跳びをするシーンがある。

「死んでるんだから、息をしてはいけない。息をするとビニールが曇つて顔が見えなくなる、と言われて、苦しかったわ。死ぬかと思つた。」

鶴橋「すまない。」
鶴橋と芦川の二人を相手にする二流画家が津川雅彦。拘置所へ面会に来ては再審請求をしようと言う。実は本気ではない。拘置所の神父は三国連太郎。魂の救済を語りながら突然死刑囚を絶望のどん底に突き落とす。その落差が凄い。そして最後のシーンで三国連太郎はかつて少女だった浅丘を冒した獣のような男として二役を演じる。天国と地獄の二役だ。

死刑執行が決まるとき、死刑囚は抵抗する。「私は再審請求をいたします。私はカモメに餌をやらなくちゃいけないの。せめてもう一日待つてください」と叫び、慣れ、死刑台に上つて「私は外の世界を見たい。」赤い灯、青い灯、道頓堀の…』と歌いながら絞首される。浅丘は「このドラマではこの『赤い灯、青い灯、…』のシーンが一番好きなんです」と言う。

浅丘はこのドラマでギャラクシー賞個人賞（主演女優賞）を受賞したが、誰もが納得の演技であった。死刑執行されて死刑囚は尿と血を流す。鶴橋演出はそれをリアリズムで見せる。

鶴橋「いや、三国さんは神父だけやるのじやもつたいなくして…」と言うが、明らかに意図的だ。

浅丘は独房の窓からカモメに餌を与えて餌付けに成功している。

死刑囚久野眉子はレズの相手をプレイヤーを締めて誤って殺し、死体をばらばらにして綾瀬川に投棄した。残虐

な殺人事件としてその年の十大ニュースに選ばれた。投棄するシーンでビニールの袋に包まれた芦川の顔がうつる。ミエミエの嘘だが、これを信じたくない。その後の質疑応答で「横浜、山下公園のカモメも言葉がわかります。松坂大輔！と呼ぶとピーと鳴きながらやります」と感じた。脚本家の池端も「そうです。そうです。彼女に空から東京を見せる鳥ですから」という。



話して、台本を読ませて芝居を教えたんです。ええ、ちゃんと覚えたのです。」ミエミエの嘘だが、これを信じたくない。この後の質疑応答で「横浜、山下公園のカモメも言葉がわかります。松坂大輔！」と呼ぶとピーと鳴きながらやつてきます」と感じた。脚本家の池端も「そうです。そうです。彼女に空から東京を見せる鳥ですから」という。

カモメに語りかける浅丘の表情は優しさに満ちていた。

死刑執行が決まるとき、死刑囚は抵抗する。「私は再審請求をいたします。私はカモメに餌をやらなくちゃいけないの。せめてもう一日待つてください」と叫び、慣れ、死刑台に上つて「私は外の世界を見たい。」赤い灯、青い灯、道頓堀の…』と歌いながら絞首される。浅丘は「このドラマではこの『赤い灯、青い灯、…』のシーンが一番好きなんです」と言う。

浅丘はこのドラマでギャラクシー賞個人賞（主演女優賞）を受賞したが、誰もが納得の演技であった。死刑執行されて死刑囚は尿と血を流す。鶴橋演出はそれをリアリズムで見せる。

鶴橋「母に浅丘さんをあんなにいじめて：お前はなんという子だろう、と叱られました。すまない。」

「名作の舞台裏」でこんなシリアルスな作品を取り上げたのは初めてである。観客は快い疲れを感じながら帰途についたようだ。（記・伊藤雅浩）

十一月二十日、幕張メッセ国際会議室
放送人の会パネルディスカッショն

放送ビジネスの将来展望

「コンテンツ」いまアジアで何が起き
ているか

パネリスト

井上隆史（㈱アジアコンテンツセン

ター取締役）

徐迪曼（上海文廣新聞傳媒集團駐日
主席代表）

大山勝美（放送人の会特別顧問）

司会 今野勉（放送人の会代表幹事）

放送番組から出発した作品はまず
「プログラム」として地上波の系列編
成に組み込まれ、ついで映像表現は局
中心体制から「述志」のプロダクショ
ンに移行し、超ネット的なパッケージ・
マーケットが前面に出る段階に入
ると「ソフト」と呼ばれるようになっ
た。さらに国際仕様が要請されるデジ
タル化は、ブロードバンドや多様な端
末のモバイル・キャッチを含めた「コ
ンテンツ」時代を迎えた。（大山）

大山勝美氏



井上 隆史氏

タテ型の中央体制とは別の「人脈」機

能も意外に有効な企業風土をどのように
利用するか、つまり「中国三千年」
を前向きにとらえる提案（徐）など、
テーマは予想外だが興味あるホンネの
話題に集中。アカデミックな論点整理
では思い浮かばない生臭い問題提起と

さなきだに先行する企画・番組共同
制作や人気番組の相互乗り入れ（韓流
ドラマ）ブーム、漢語圏（台湾や華僑）
も視野に入れた多様な展開による現場
間サロンの活況…。

具体的な事例が交錯し、興味津々のシン
ポとなつた。

北京オリンピックや上海万博を前に
欧米的映像サロンを見据えたアジア・
サロンはどう展開するか、その際のネ
ックは何か。

中でも対中國のケース・スタディーと
して、屈曲した事例を長年NHKでメ
イン・ドキュメンタリーを手掛けた経
験から、例えば著作上の諸権利、放送
契約、制作予算などにみる「中国三千
年の慣習」（徐）とかみ合わない現場の
いらだち、それを踏まえいかに前へ進
むか（井上）、

「はじめに予算ありき」よります現場
の情熱が先行して「テレビ時代」を作
り上げてきた。いま予算管理とターゲ
ット編成の、一見近代的ビジネスに組
み込まれた発想がコンテンツの矮小化、
蓄積の貧弱化を示している現状につい
て触れ（大山）、やや樂観的かもしれない
が、われわれには「情熱のビジネス」
による交流というものもあり得る（今
野）と結ぶ。

東漢字圏の底流で共振する東洋のコ
ンテンツ文化。その競合エネルギーが
やがてハリウッド支配を超える近未来
図を予測するような有益なシンポジウ
ムであった。（記・松尾羊一）

ひとりごと

表題「放送人の会」のロゴが変わっ
たことにお気づきでしょうか。会員の
橋本潔さんのデザインによるもので
す。今後、封筒など含め「会」の統一
字体になるものです。

放送人の世界

日時	二〇〇八年二月二日（土）
会場	午後一時半～五時
	九日（土）
	十六日（土）



徐迪曼氏

会場	JR、横浜市営地下鉄
	◇ 地下鉄みなみみらい線 「日本大通」駅真上

会場	「関内」駅から徒歩十分
	◇ 「日本大通」駅真上

講師	大山勝美（㈱カズモ代表取締役社長）
	聞き手 今野勉（放送人の会代表幹事）

入場料	無料、定員四十名（応募多数 の場合は抽選）
	主催 放送人の会、放送番組センター

上映作品	二月二日 ビルビリリは歌う 若者 努の場合（以上二作は一九六 二年 TBS）
	二月九日 わが愛（一九七三年 TBS）

上映作品	二月九日 わが愛（一九七三年 TBS）
	ふぞろいの林檎たち（一九八三年 TBS）

上映作品	二月十六日 蔵（一九九五年 NHK）
	天国までの百マイル（二〇〇一年 テレビ東京）

* メディア関連の講座を担当して
いる会員の皆様方、学生たちに吹聴し
てみてはいかがでしょう。

地域の「」、「地域の」を伝える

「地方の時代 映像祭」大阪で開催

記 石井 彰

第27回「地方の時代 映像祭」2007年07年12月1日、関西大学（大阪府吹田市）で開催された。

映像祭は1980年川崎市でスタート。その後川越市へ移り、今回から大阪開催となつた。映像祭の開催を危ぶむ声もあつたが、関西大学、日本放送協会、日本民間放送連盟の熱意により、継続して開催されたことを喜びたい。

贈賞式が行われた12月1日、関西大学社会部第3学舎には500人を越える制作者、市民、学生が集まり、熱気に包まれていた。NHKや在阪民放各局の代表もほとんど出席し、映像祭への並々ならぬ意欲を感じさせた。

今回の参加作品は昨年を上回り、放送局90、一般18、高校生12の計120作品。森まゆみ委員以下、結城富美子、吉岡忍、境真理子、森達也、筆者、6人の審査員による討議は熱を帯び、グランプリを決めるための討論は5時間を越えるものとなつた。

その結果、グランプリは「約束のダムが奪うもの」（東海テレビ）が選ばれた。「約束」は、岐阜県の徳山ダム建設で土地を手放す代わりに村民に約束された道路建設が、その後市町村合併により簡単に反故にされた事実を追つた番組。

同局では、1982年に同じ徳山ダム建設を題材に「わが故郷は消えても…」を制作、地方の時代賞グランプリを受賞している。25年ぶりの快挙となつた今回の「約束」も、長年にわたる継続取材の厚みが受賞の決め手となつた。

最後までグランプリを争い、優秀賞を得たのは「18

の描いた、虚ろな目をした青年が機械と合体＝束縛された絵のメッセージ性が鋭く審査員の胸に刺さつた。審査会では直前に急逝した審査員、佐藤真監督の名を付した「佐藤真賞」が新設され、この「180枚の自画像」に贈られることになつた。

優秀賞には「高速ツアーバス 格安競争の裏で」（NHK広島）「トリアージ 救命の優先順位」（NHK神戸）「助かるもんも助からん、告発・生活保護行政のヤミ」（九州朝日放送）「埋まらない空白～志布志事件・検査の闇～」（南日本放送）が選ばれた。

また、一般部門の最優秀賞には、日本大学の学生、門脇妙子さんの作品「おたりの谷ボクのいえ」が選ばれた。過剰な説明も字幕もないこの作品はかえって新鮮にうつった。

東京へ一極集中が加速するなかで、地方の時代映像祭が、西の大坂で開催される意義は大きい。「民の力」で開催される「映像祭」を、ぜひ放送局のOB・OGの皆さんも応援してほしい。（地方の時代映像祭審査員）

胸に降る落葉多き日太宰読む もとを（◎き、冠）
湯豆腐の小旗に気づく嵯峨野道 視郎（◎馬、も）
湯豆腐の似合う女や足袋を脱ぐ 康夫（冠、視）
うつ伏せも仰向けもあり枯落葉 削られて傷抱く娘と湯豆腐を 康夫（冠、馬）
踏む音に言葉紛れて落葉径 もとを（冠、き）

湯豆腐の湯気に解けゆく悟気かな 勝美（視、も）
湯豆腐や町並み低く京言葉 きよし（視、も）
落葉すれどほど明るくならぬ街 阿舟（視）

朝まだきテレビ体操の一、二、三 馬笑（視）
もののけの棲む祠あり落葉降る きよし（視、も）
読み残すチエホフ閉じて降る落葉 きよし（康、も、馬）

落葉すれどほど明るくならぬ街 阿舟（視）
湯豆腐の湯気に解けゆく悟気かな 勝美（視、も）
うつ伏せも仰向けもあり枯落葉 削られて傷抱く娘と湯豆腐を 康夫（冠、馬）
踏む音に言葉紛れて落葉径 もとを（冠、き）

湯豆腐の湯気に解けゆく悟気かな 勝美（視、も）
湯豆腐や町並み低く京言葉 きよし（視、も）
落葉すれどほど明るくならぬ街 阿舟（視）

朝まだきテレビ体操の一、二、三 馬笑（視）
もののけの棲む祠あり落葉降る きよし（視、も）
読み残すチエホフ閉じて降る落葉 きよし（康、も、馬）

落葉すれどほど明るくならぬ街 阿舟（視）
湯豆腐の湯気に解けゆく悟気かな 勝美（視、も）
うつ伏せも仰向けもあり枯落葉 削られて傷抱く娘と湯豆腐を 康夫（冠、馬）
踏む音に言葉紛れて落葉径 もとを（冠、き）

湯豆腐の湯気に解けゆく悟気かな 勝美（視、も）
湯豆腐や町並み低く京言葉 きよし（視、も）
落葉すれどほど明るくならぬ街 阿舟（視）

朝まだきテレビ体操の一、二、三 馬笑（視）
もののけの棲む祠あり落葉降る きよし（視、も）
読み残すチエホフ閉じて降る落葉 きよし（康、も、馬）

落葉すれどほど明るくならぬ街 阿舟（視）
湯豆腐の湯気に解けゆく悟気かな 勝美（視、も）
うつ伏せも仰向けもあり枯落葉 削られて傷抱く娘と湯豆腐を 康夫（冠、馬）
踏む音に言葉紛れて落葉径 もとを（冠、き）

湯豆腐の湯気に解けゆく悟気かな 勝美（視、も）
湯豆腐や町並み低く京言葉 きよし（視、も）
落葉すれどほど明るくならぬ街 阿舟（視）

朝まだきテレビ体操の一、二、三 馬笑（視）
もののけの棲む祠あり落葉降る きよし（視、も）
読み残すチエホフ閉じて降る落葉 きよし（康、も、馬）

第五回放送人句会

◇平成十九年十一月十三日（火） ◇於：麦屋

◇出席：石橋冠、伊藤視郎、鶴橋康夫、新村もとを、橋本きよし、松尾馬笑、西川阿舟

◇不在投句：大山勝美

◇兼題：落葉、湯豆腐、テレビ（放送）

駅前で落ち葉絡まる「町の声」 馬笑（◎冠、康）

女優二人背を丸め来るロケ焚火 きよし（◎視、冠、舟）

野良猫のでぶでぶ太り落ち葉踏む 馬笑

兼題 寒鯉、初（初夢、初詣など初のつく季語で）、

劇（ドラマも可、他の季語をいれて）

なお、不在投句のお方は〇三・三五八六・〇〇五六までFAXでどしどしご送稿下さい。

拾われてなお身を糾す落葉かな 冠（◎康、き）

予定とは違う人生落ち葉踏む 康夫（◎も、◎舟、

「最後までグランプリを争い、優秀賞を得たのは「18

名誉会長 川口幹夫

ラストの弁

今や、人生八十年時代になつてゐる。
そして私は八十歳代の正に象徴のよう
なものだ。

よし、決めた。世代の象徴のよう
な存在なら、そのように生きてやろう！

九十とか百を目指すことは全くない。

昔、人生五十年、六十年といったけ
ど、今なら何年なんだろう。時代の流
れ、人間の変化を考えれば、まあ、八
十年がいいところか、そう考へている
うち、八十歳になつた。

八十歳を迎えた私は、いきなり「ド
ン！」と人生八十の姿をつきつけられ
たのである。

ときには二〇〇六年九月二十五日！

正に私が八十歳を迎えた日である。
肉体的な意味だけではない。精神的
にも、更には情緒的にも、八十歳とい
うピリオドは私という個体のすべての
分野に押し寄せた。手も足も目も耳も、
どれもこれも八十歳という日がきてか
ら、ガタガタと崩れるように悪くなつ
てしまつたのである。

これにはびっくりした。

おいおい、これでは早く死ね！と言
われているようなものではないか。

私は少々抵抗してみた。降りそそ
いでくる心身衰退の波に逆らうように
頑張つてみた。——だが、何というこ
とだろう。それらの反発はすべて不發
に終わつてしまつた。

どんなに逆らつてみても、老化した
体は反発してこない。意欲は縮まるば
かりである。ウム！やはりそうだ。



“放送の緊迫”を語り合う
小さな集い・第四回

（松田浩氏を招いて）

石井清司

少し前、松田浩氏は「閉塞状況の社
会のなかで、放送メディアは市民社会
とあるべき関係を再構築できずについ
て」と憂えた。テレビは人の考える力
を衰えさせ、事実報道への信頼性は落
ちたと見た。“テレビと市民意識”は氏

の研究主題のひとつだ。その論は公共
的メディアとジャーナリズムの主体性
の確立へ進む。政治権力に毅然たるテ
レビ。氏のこのコンセプトは堅牢であ
り、“放送の自由”“マスメディアの集
中排除”的現状を捉える砲台でもある。
当然その論は公共放送NHKとは何か、
放送法改正の是非へと進む。氏の労作

「ドキュメント放送戦後史」は、戦後
電波三法の成立を見る上で貴重だが、
これらの氏の放送を憂う眼差しを、膝
を接して吸い尽くしたかった。

十一月二十四日（土）午後一時から

五時まで“放送の緊迫”を語り合う小
さな集い第四回を、そんな松田氏を囲
み、恒例のテレビマンユニオンの会議
室で関連二十五人が聴いた。篠原俊行

（武藏野大）、萩野靖乃（同）、川平朝
清（昭和女子大）、坂上遼（東経大）、
大蔵雄之助（異文化研究所）など研究
者が顔を揃え、NHK文研、放作協、
各局制作者、制作会社からの参加、更
に議員側やインターネットの参加は異

色だった。露木茂、川竹和夫氏など放
送人の会から九人、それにマスコミ数
人と多彩になつた。講者の抛つて立つ
根幹から照射される論考は多彩、多岐
にわたり、参会者の多様性が又フォー
ラムの論考を味のある多彩なものにし
た。発言は殆ど全席にわたり、一家を
成すそれぞれの陳述発露が又個性で光
り、場はたつぶり潤つた。

氏は「何のための“放送の自由”か
という無理なことを考へることもない。
淡々と老いが深まつてゆくのを、ゆ
っくりとかみしめながら生きてゆけば
いいのだ。

せめても、私が一生かかつて歩んで
きた放送というものが「いいねエ！」な
かなかいいねエ！」と皆さんに言つて
もらえる存在であつてほしい。

皆さんどうもありがとうございます。

（テレ）ビの半世紀を問いつと標
題を立て、一、戦後の放送民主化と電
波三法、二、転換点としての一九六〇
（七〇年代、三、「放送法改正案」の意
味するもの、四、デジタル化時代の放
送人の職能的課題、と論を進めた。一
貫して現在の放送・テレビの危うい生
態を衝くものとなつた。余談だが、日
経の放送記者担当時代の緊迫した取材
エピソードには魅きこまれた。

圧巻はやはり氏がライフワーク的に
取り組んできた電波三法成立の詳論で、
聞き損じないことが肝要だつた。「放送
法」の根幹についての話は分かりにく
い素材だけに学習になつた。一九六〇
年、七〇年代とテレビジャーナリズム
と民衆、放送法改正の問題点にも触
れた。デジタル化については海外の例が
参考になつた。

特に驚かされたのは、作成してきて
くれた「放送の自由と政治介入」の全
年譜だつた。「あるある…」以後、事態
が水面上で更に陥悪化していくことと
忘れるべきではないだろう。

次回は一月一九日の予定。

『全国テレビドキュメンタリー'07』

編集
田原茂行 鈴木典之

(大空社 6,000円)



「（視聴率が）取れず、売れず、作らす」。いまやドキュメンタリーはこの「三・三の川」のほとりで迷つてゐる。

番組群をバランス感覚で整合する総合編成のNHKとちがい民放は商業放送である。マーケティング優位な編成下では、ドキュメンタリーは単発スペシャルはともかく、日常的な「番組」編成からは排除され、局内から志しませられない組織になつてゐる。その精神性は失われ、クルーと称してワイドショーなどコーナーに資料映像を提供する下僕になりきがつてゐる。

かわって70年代後半あたりから「民教協」や「地方の映像祭」、その他ギャラクシー賞など、諸々のコンペティション活動が起爆剤となつて地方局の現場に「映像サロン」は移行しつつある。

その夥しい映像のもつ同時代的メルクマールを四散させてゐる現状がある。かつて柳田國男は『遠野物語』の序文に「願はくは之を語りて平地人を戦慄せしめよ」としたが、こざかしい都会人ないし近代主義を指す平地人(=キー局)にたいし、地方局は毎年多様な作品群を生んでは、挑む。

この書は、風土から多角的な問題意識を綴る映像記者たちの壮大な「現代拾遺」の年鑑である。本来ならばNHKや民放連などセンターがかかるべき作業だが、個が自己完結する他分野の表現とは違い、作品群は微妙に局の組織にからむゆえ手をつけられない。この書は、放送現場に精通する二人の客観的かつ精密な目配りによって完成された傑作である。ライブラリー機能も紹介してるように一過性な書ではなく、広く放送の現場や意欲をもつ学生に、講義資料として活用されること何よりも「年鑑」の持続を望みたい。

(松)

この書は、風土から多角的な問題意識を綴る映像記者たちの壮大な「現代拾遺」の年鑑である。本来ならばNHKや民放連などセンターがかかるべき作業だが、個が自己完結する他分野の表現とは違い、作品群は微妙に局の組織にからむゆえ手をつけられない。この書は、放送現場に精通する二人の客観的かつ精密な目配りによって完成された傑作である。ライブラリー機能も紹介してのように一過性な書ではなく、広く放送の現場や意欲をもつ学生に、講義資料として活用されること何よりも「年鑑」の持続を望みたい。

『金子みすゞ ふたたび』

今野 勉著

(小学館 1,600円)

著者はかつてNHKスペシャル

『こころの王国』童謡詩人金子みすゞの世界』(96年)を作つた。生誕の地

仙崎や下関に彼女の残像を追い求め、短い生涯に詩をちりばめ、ドラマ表現の部分に小林綾子と山本耕史を姉弟役

にして構成、いわば映像評伝(芸術選奨受賞)の傑作を残した。その今野勉がほぼ10年経つて『金子みすゞふたたび』(小学館)を上梓した。今野にとって、なぜ「ふたたび」なのか。

放送の分野でも一事不再理がほぼ宿命だ。やりなおしがきかない。こまやかな内面の描写力では活字に及ばない。映像では語り、論じにくせないテーマへの再挑戦だろうか。

まず、今野は無縁墓に瞑る童謡詩人の父や母の家系をまるで憑かれたようになつこく調べあげ、みすゞの背景か

金子みすゞ ふたたび

今野 勉

新事実発見!
遺された512編の詩に托された
天才詩人のこころの葛藤を読み解く。
小林綾子監修による「金子みすゞの世界」からトキナ
ふたたび原書が贈られます。価格
定価1,600円(本体1,600円+手数料)

☆ 放送予告 ☆

◆ 第22回民教協スペシャル
『失くした二つのリング』

没後60年 長谷川テルが遺したもの

放送 2008年2月11日

前 10時56分 (予定 テレビ朝日)

企画 尾崎祈美子 構成 菊地 豊
中国放送報道制作局報道センター

大きく逸脱し、羽ばたいた世界の豊かさに嘆息するのだ。言葉で時空間を遊ぶ詩人を羨望するのが優れた放送屋だ。愛にみちた嫉妬の書なのかもしれない。

(松)

構成 久野浩平

今回は放送人の職人と申しますか、音響、美術スタッフのベテランたちの「証言」を集めてみました。

が示す通り兵庫県のさるお寺の生まれ
一九四九年夏、突然演劇に魅せられ家
出同然上京、文学座の門を叩きます。
新劇人の道を歩き始めるのですが五一
年、ラジオ東京（現TBS）開局に誘
われてK.R.効果団に所属、音響効果の
専門家になります。「花の行方」や
「ウツカリ夫人とチャッカリ夫人」など
無数のラジオ連ドラでナマの効果を
担当。得意技は子犬の声でした。「証
言」は阿木翁介さんから鰻の大群の声
を作れ、霧の音をと注文され困った話
や和田精さん付きミキサーからK.R.の
演出家になつた原弘男さんが試みた音
のモンタージュの新鮮さなどを語ります。
後年、美術製作に移り、「東芝日
曜劇場」を担当、種から収録までの不
断草をスタジオドラマで実現するため
わざわざ種を蒔いて準備した話など、
凝り性ぶりは相変わらずです。

「いわゆるサラリーマンじゃなくて
俺は俺でやるぞ、職人なんだ。だから
俺は俺の考えで動くんだ、それで皆さ
んの為になれば、作品の為にいいな、
ということで過ごさせて頂きました。
幸せだったと思います、うん」

たのはこのDK。終戦で引き揚げ、まずは米軍放送FENに勤務し、中継やディスクジョッキーのミキサーを担当。五一年民放開局時にラジオ九州（現RKB毎日放送）入社。当時のRKBの主調整卓はそつくりFEN器材のコピーでした。大場さんは常に最高の音を求めました。谷川俊太郎、川崎洋さんたちの放送詩劇のミキシング、五九年東京支社に移ってから安部公房、武満徹さんと組んだドキュメンタリードラマ「チャンピオン」はドラマ全体がミージック・コンクレートといえるような作品です。一人の俳優に三本のマイ

が多いホームドラマ、時代考証が必要な「徳川家康」などの時代劇の消え物について様々なエピソードが語られますが。家庭の奥さんが作る料理と離婚した男性が独りで作る料理献立の区別、俳優さんの好き嫌い、科白を言いながら食べやすい料理などなど、細かな配慮、研究には頭が下がります。

「テレビに映らないんだからそんなに味付けに手をかけなくていいって言われましたけど、でもやはり役者さんが食べて美味しいだけりやいい演技ができるだろう、というのが私たちの（中略）作る側の考え方なんですね」

(中略) 映画の人は駄目です。衣装部が全部面倒みちゃうしきたりですからね。だから最初が肝心だと。テレビが出て来た時にはもう誰も言わない。テレビは歴史が浅いんですから」

クを用意して音色の違いをミキシングしたり、佐藤慶次郎さんと協力して「ンタクトマイクの実験を試みるなど「証言」は大場さんの徹底した仕事ぶりを明らかにします。

「ホンは何回でも読む。書き込んで真っ黒けに汚すから一冊じや足らん。新しいのをもう一冊貰う。それにちやんと清書して本番を迎える。私だけは台本を常に二冊貰つたもんです」

栃木始さんは衣装の専門家です。若年から東京衣装に所属、映画、歌舞伎を経てNTV、TBSの衣装係を手伝いました。当時は衣装の運搬は唐草で往復し、模様の風呂敷包みを背に都電で往復しましたのですが、まさに泥棒スタイル。柄木さんも交番に捕まつた経験があつたそうです。五八年、開局準備中のNETに入社。衣装担当になります。番

の思い出話を中心です。擬音効果から
録音効果へ、テレビが始まりフキカエ、
アニメの音作りなど新しい仕事と対面
しました。芸術祭賞を受賞した吉村昭
原作「破獄」では〈作音〉と称し音楽
の代わりに効果音をデフォルメした一
種のミュージックコンクレートで全編
を通す冒険を試みました。実音とは違
うもう一つのリアリティーの探求が大
和さんの主題です。法螺貝、ペットボ

「いわゆるサラリーマンじゃなくて、わざわざ種を蒔いて準備した話など、凝り性ぶりは相変わらずです。俺は俺でやるぞ、職人なんだ。だから俺は俺の考え方で動くんだ、それで皆さんの為になれば、作品の為にいいな、ということで過ごさせて頂きました。幸せだったと思います、うん」

次は 石橋恵三子 さんです。石橋さんは美術関係、生け花と消え物の専門家です。実家は料亭で古流と草月流の華道を修め、麻布の花屋を手伝っていた石橋さんでした。五九年近所にNFT（現テレビ朝日）が開局、頼まれて対談番組に飾る生け花と軽い飲み物を準備するようになります。生け花につ

社を選び、衣装を借り出す複雑な仕事です。『どこに行けば何がある、誰が出ればどこに行く』が当時の衣装さんとの必要知識でした。ナマ時代の早変わったりの苦労、主演女優たちの衣装タイプから十二單、家紋、陸海軍の軍服の変遷にみる時代考証についてなど、坂本さんの「証言」は幅広く多様です。

どを駆使した効果音『実演つき』の樂
しい大和さんの「証言」でした。

「デジタル、デジタルって言つても
デジタルで音が伝わってくるわけでは
なく、アナログに還元されてはじめて
空気が伝え、私たちの耳に到達するわ
けですから、大もとの音源はわれわれ
が出してる音ですから（中略）しかし

いては七〇〇〇回を超す「徹子の部屋」の装飾などが話題ですが、「証言」の中 心は番組の消え物です。舞台や映画と違って、テレビドラマでは本当に食べ る連続した演技が欠かせません。「氷 点」「だいこんの花」など食事シーン

「舞台出身の人っていのはね、手がかかるないというか、着付けも自分でやっちゃう。着物を着るにしても自分で帯結んでもう、特に杉村春子さんは、これは自分で着ますからと。その上きちんと畳んで返してくる。

まあ、色々なことで優秀な加工の機械がたくさん出てきたもんですから、新しいクリエイティブな効果の時代に入ってきたのかなあ、そんな感じがいたしますけれども」

(次回もおたのしみに)

☆ 次号は新春号（2月10日発行予定）です。年賀状文を転載希望の方は事務局までご送付ください。

『会員賀状特集』として会報に掲載させていただきますので…

編集後記

会員名簿	07・12・19現在
(二) 小池勝次郎	河野尚行
児玉久男	児玉孝光
小中陽太郎	小南武朗
近藤晋	
(あ) 合川明	青木裕子 赤井朱美
秋田完	新井和子 有馬哲夫 (い)
石井清司	石井ふく子 石井彰
石橋冠	磯野恭子 磯村健
市岡康子	一色伸夫 伊藤雅浩
井上良介	岩澤敏 岩下恒夫
(う) 上田千秋	碓井広義
歌田勝彦	宇野昭 浦田彰
(え) 江口展之	遠藤利男
遠藤ふき子	遠藤雅充
(お) 大蔵雄之助	太田敬雄
大野木直之	大西康司 大西文一郎
大類啓	大原れい 大山勝美
岡田晋吉	緒方陽一 岡村黎明
各務孝	片岡敬司 片島紀男
勝部領樹	沖野暉 荻野慶人
金沢敏子	兼歳正英 金平茂紀
加納孝夫	上安平冽子 鴨下信一
川口健一	川口幹夫 川竹和夫
川平朝清	河邑厚徳 河村正一
(き) 岸田功	北川泰三 北川信
北出晃	北村美憲 北村充史
木村栄文	木村成忠
(く) 楠美昌	工藤英博
隈部紀生	
(二) 小池勝次郎	河野尚行
児玉久男	児玉孝光 後藤和晃
小中陽太郎	小南武朗
近藤晋	
(に) 西川章	新村もとを
児玉久男	児玉孝光
小中陽太郎	小南武朗
近藤晋	
(西) 西川章	新村もとを
児玉久男	児玉孝光
小中陽太郎	小南武朗
近藤晋	
(の) 野崎茂	信井文夫
(は) 萩野靖乃	橋本潔 林健嗣
林裕史	原由美子 原田庸之助
(ひ) 備前島文夫	久野浩平
一杉丈夫	(ふ) 深町幸男
福田雅子	藤井潔 藤井チズ子
藤田晋也	藤久ミネ
(ほ) 星田良子 堀川とんこう	
(ま) 松尾羊一 松平定知	
松前洋一	松本明 松本修
松本国昭	
(み) 三上義智	水上毅 水野憲一
杉田成道	鈴木克明 鈴木昭典
鈴木道明	鈴木紀郎 鈴木典之
須磨章	せんばんよしこ
(そ) 曽根英二	(た) 高島秀之
高橋一郎	高橋啓 滝大作
武谷雅博	田澤正穏 田中昭男
田中直人	田原英二 田原茂行
(ち) 千葉勉	
(つ) 露木茂	鶴橋康夫
(や) 八木康夫	矢島良彰
薮内広之	山県昭彦 山崎隆保
山崎裕	山路家子 山田良明
山田尚	大和定次 山根基世
山辺麻未	山本恵三
(ゆ) 湯浅和憲	(よ) 横沢彪
吉村直樹	吉村光夫
(わ) 和田智允 渡辺紘史	

幹事会が終ると近かばで飲み会をや
れば、横浜は「舞台裏」打ち上げでビ
ル地下飲み屋へ、幕張で、俳句の麦屋
も。交わされる雑談から◆贈つてき
たカレンダーを眺めると暮れから正月
にかけ休祭日の巡り合わせがいい。ド
バッと2週間連休組もいるらしいが毎
日が日曜日だと一週間って何だろう?
関係ねえだろ、俺たちはカレンダーじゃ
なくサレンダー(おりた)なんだから
◆話変わるが、浦和レッズの各種HP
を開けるとスゴイ! 野球は巨人の時代
は終わった。セで優勝なのに東京は燃
えない。阪神、日ハム、仙台、やれ佐
賀北高の逆転満塁だ、北京だ。巨人V
S時代から、今やホームとアウェイの
関係なんだな◆テレビのキー局首脳部
は相変わらず「KY」で、全国区の巨
人並み系列意識にしがみついてるが系
列「吉兆」で老舗はサンザンなのに。
◆「つかみ」連呼のバラエティー氾濫
でプロデューサーは「流れでいこう!」
ばっかり。じつは視聴率に流されてい
るのに。「フォーツ」で消えたタレン
ト、こんどは裸の小島某かい。使い捨
てテッシュペーパー・テレビ◆だから
心ある現場じゃ最近「立ち位置」って
バミからきた業界語をよく使う。わが
局の立ち位置はどこだ? ◆昔はステー
ション・カラーとかステーション・イ
メージだったが、いま求められるのは
ステーション・カルチャーダラうが。
皆様、良いお年を…

(松)